

メッセージアウトライン

ローマ13：8～10「互いに愛し合うこと」

[8]「だれに対しても、何の借りもあってはいけません。ただし、互いに愛し合うことについては別です。他の人を愛する者は、律法を完全に守っているのです」

「何の借りもあってはいけません」とは、ただ借金があつてはいけないということだけではなく、人間関係において精神的なものも含めてあらゆる借りがあつてはならないという意味。たとえば受けた親切に対して感謝をもってこたえる等。ただし、「互いに愛し合うことについては別」と言われている。ここで言われている愛は単なる感傷的なものではない。→ローマ5:6~8、Iヨハネ4:9~11

聖書は神が私たちに示してくださった愛をもって、互いに愛し合うようにと教えている。なぜこのことが重要なのか。それは他の人を愛する者は律法を完全に守ることになるからである。

[9]「『姦淫するな、殺すな、盗むな、むさぼるな』という戒め、またほかにどんな戒めがあつても、それらは、『あなたの隣人をあなた自身のように愛せよ』ということばの中に要約されているからです」

ここにあげられている四つの戒めは出エジプト記20章に書かれている十戒のうちの後半の人間関係、社会生活にかかわる戒め。十戒の前半は神に関する戒め。またこれら以外のどんな戒め、律法でも、「あなたの隣人をあなた自身のように愛せよ」ということばの中に要約されるとパウロは言う。

イエスもこのことについて教えておられる。→マタイ22:35~40「律法の中で、大切な戒めはどれですか」との律法学者の問いに対して、「心を尽くし、思いを尽くして、あなたの神である主を愛せよ(申命記6:5)」と「あなたの隣人をあなた自身のように愛せよ(レビ記19:18)」の二つの戒めをあげられ、「律法全体と預言者(つまり聖書全体の教えと戒め)とが、この二つの戒めにかかっている」と言われた。

[10]「愛は隣人に対して害を与えません。それゆえ、愛は律法を全うします」

聖書の教える愛の特質に関してはIコリント13:4~7を参照。

この愛をもって他の人に対していく時、その人は、あらゆる律法の戒めを守っていることになり、隣人に害を与えることはない。礼儀に反することをせず、自分の利益を求めないならば、決して他人のものを取るといふことはしない。怒らず、人のした悪を思わず、不正を喜ばないならば、決して復讐したり、人を傷つけたり、殺したりするということもしない。自慢せず、高慢にならないならば、決して、人を見下したり、差別するという事もない。このようにして愛は律法を全うするのである。

この愛は私たちの生まれながらの性質から出てくる愛とは次元の違うものであるが、信者はそれをイエス・キリストの十字架の贖いを通して教えられ、知り、体験しており、神の恵みにより、実践することができるようになるのである。私たちは互いに愛し合うことによって、この地上での人間関係、社会生活においても神の栄光を現わす者となるのである。